

プラスチック製品の危険性

2018年の年明けに、何よりも、核兵器が使用されませんように、平和でありますようにと祈りました。何かの手違い、思い違いで、もしも核兵器が使用されたなら、今の状況では、あつという間に、第二次世界大戦の死者を越える深刻な被害が出る、と予想されています。緊迫する核兵器使用の危険性に、国連では昨年7月、「核兵器禁止条約」を122か国の賛成で成立させました。唯一の戦争被爆国である日本の参加が強く望まれたのですが、ボイコットしたのです。画期的な条約ですが、日本政府の対応はとても残念です。また、10月には条約成立に大きな力を発揮したICANが、関わった被爆者を含め、ノーベル平和賞を受賞しました。軍備の拡大ではなく、どんな相手とも、粘り強く話し合い、相手を否定することなく、助け合いの精神で、何とか平和の道を探り、求め続けていって欲しい。多くの人がそう願っているに違いないと思います。一人ひとりの真剣な願いや祈りには、大きな力がある、ということもわかってきました。自分ひとりくらい、何を考えても大勢に影響は無い、と無力感に覆われているかもしれませんが、実際には、世界に大きな影響を及ぼしているということを、年の初めに改めて、思いを巡らせてみませんか。

さて、今回のプラスチック製品の危険性について、ですが、化学物質過敏症支援センターの100号記念誌に、塩化ビニール製品の健康障害性、について宮田幹夫先生が詳しく書かれています。私たちはプラスチックのアレルギーは診てきましたが、アレルギー以外の有害性について、見方が甘かったのではないかと反省し、ここに取り上げます。

プラスチックといっても多種類あり、使われはじめて、わずか60年程の間に、世の中は何と様変わりしたものでしょうか。今や、空気も、水も、土も、海さえプラスチックスープと言われるほど汚染されてきました。その中でも特に有害なのが、塩化ビニール製品だと言われます。塩ビとは、塩ビモノマーと可塑剤としてのフタル酸化合物の混合物であり、次のような毒性があると言われます。

塩ビでは、発がん性、特に肝胆道ガン、B型肝炎の場合ガン発症率が異常に高い、DNAの損傷、神経症状では、頭痛、神経質、体力低下、記憶力低下、睡眠障害、無気力、レイノウ症候群、自律神経失調症、などが指摘されています。

可塑剤では、ホルモン系への作用があり、脂肪に溶けやすく、発がん性（精巣がん）、免疫毒性、喘息、鼻炎、呼吸機能低下など、生殖、周産期毒性、不妊、子宮内膜症、学習障害、ADHD（注意欠陥多動性障害）IQ低下、行動異常など、肥満や糖尿病との関連も指摘しています。化学物質過敏症の方は超微量な物を危険と感じ様々な反応を示しているのです。これらは食品のみならず、水道水、医療器具、建材、おもちゃ、日用品まで多岐にわたっています。私たちは、便利さや快適さに流され、つけこまれ、お金の支配されて、自分たちの墓穴を掘り続けているのではないのでしょうか。元に戻るわけにはいかず、途方もなく大きな課題ですが、身近な、できるところから、生活を改めていこうではありませんか。